

厚木市総合計画 あつぎ女性100人プロジェクト (12月7日開催)

実施結果報告書

1.開催概要

項目	概要
目的	第11次厚木市総合計画の策定に向け、様々な分野に女性の視点を取り入れることで、誰にとっても暮らしやすいまちづくりを進めるとともに、ジェンダーの平等及び男女共同参画社会を実現するため、女性を対象とした「未来のあつぎ」を自由に語り合うワークショップを開催し、女性が考えるまちの将来像の把握を行う。
開催日	令和6年12月7日(土)
開催時間	10時から12時10分まで
開催場所	アミューあつぎ6階 ルーム610
参加者	厚木市内在住の中学生以上の女性 33人
内容	「あなたにとって幸せとは？～ウェルビーイング(※)～」,「ウェルビーイングなまちとはどんなまち？」,「厚木市をウェルビーイングなまちにするために必要なこと」について議論し、発表しました。

※ ウェルビーイング(well-being)とは、「身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること(=幸せ)」をいいます。

2.実施方法

- ・ あつぎ女性100人プロジェクトは、ワークショップ形式で開催しました。参加者の主体性を重視し、将来を見据えたまちづくりの方向性について、市民協働による検討を行うため、ワークショップ形式を採用しました。
- ・ 一人ひとりがウェルビーイングを実感できる社会の実現を目指すことが、まちづくりにおいて重要になっていることから、御自分とまち全体のウェルビーイングをテーマとして話し合いを行いました。

テーマ①

「あなたにとって幸せとは？
～ウェルビーイング～」



- ・ 10歳代から60歳代までの幅広い年代の市民が参加しました。
- ・ 4～6人のグループに分かれ、自己紹介をしながらウェルビーイング（幸せ）を感じることにについて話し合いました。

テーマ②

「ウェルビーイングなまちとはどんなまち？」



- ・ ウェルビーイングなまちとはどんなまちかについて付箋に書き出しながら、グループで共有しました。

テーマ③

「厚木市をウェルビーイングなまちにするために必要なこと」



- ・ 厚木市をウェルビーイングなまちにするために必要なことについて、付箋に書いて出し合い、似た意見のグループ化や重要度について話し合いました。

グループごとに発表



- ・ テーマ③で話し合った内容について、重要な取組とその内容・理由について発表しました。

3.市民意見

全部で、176件の意見が出ました。
全ての意見は別紙を参照してください。

3-1.あなたにとって幸せとは？～ウェルビーイング～

班	主な意見
1	朝起きて元気だったとき、洋服作って出来あがった時、仕事で評価された時、何も考えない時間、知らない人に親切にできたとき、たのしそうな人を見かけたとき、友人か家族と楽しい時間を過ごす、ゲームをしている時、頼れる人が近くにいる、ごはんがおいしい
2	経済的に困窮がないこと、役割発揮の場(機会)があること、協力し合える(個人の意志を尊重して)、子どもと会話が進むとき、好きなものを食べているとき、自分のことが自分でできること、新しい物事に挑戦したとき、誰かと笑い合うとき
3	孫達との交流、人と人が触れあいつながれる事、今の環境に感謝できる事、健康であること、風通しの良い職場で働く事、ライブ観戦、推し活が楽しい！、前向きな気持ちで人とかかわっているとき、趣味の裁縫をしているとき、家族と食事をしているとき
4	仲間とのランチや飲み会、家族がすこやかにすごせていること、笑顔でいられること、自分の知識を他の人に与えること、美術などアートにふれている時、心にゆとりをもてている時、ゆっくり読書、夜景など風景を見ている
5	よい景色に出会えたとき、家族で出かけて思い出が増えたとき、健康であること、ペットが元気であること、子どもがかわいい発言をしたとき、おいしいものを食べたとき、予定通りのバスに乗れたとき、道がすいていたとき、よいメンバーと仕事をスムーズに終えたとき
6	健康である、おいしい食事をしているとき、ぐっすり眠れる、安心して家にいられる、小さい子どもたちのお散歩に出会う、街のゴミ拾いをしてキレイにする事、空気がおいしい、仕事にやりがいを感じたとき、ほしいものが買える

3.市民意見

3-2.「ウェルビーイングなまち」とはどんなまち？

全部で、128件の意見が出ました。
全ての意見は別紙を参照してください。

班	主な意見
1	街路樹・花壇が豊かな街、ゴミが落ちていない清潔な街、子ども服の循環、地域コンポスト(食・ゴミ)、ご近所づきあいがあたたかい街、困っている人がいたらちゅうちょなく声かけられる、障害のある方が特別な目で見られない、多様な世代の交流がある、個人のお店が長く続けられる、楽しいイベントが多い
2	自然(森林だけでなく畑や田んぼ)が近くにある環境、駅から離れていても生活に困らない、安心安全な食事ができる(無農薬、地産地消等)、困り事が発生した時情報が手に入れられる、高齢者でも住みよいまち、学校に行かなくても居場所がある、現実を知る機会がある
3	商店街等のキャッチがない、子どもが安全に登校できる、速度制限が守られる、人と関わるきっかけがある、地域のつながり・声を気軽にかけられるまち、渋滞なくしたい、楽しいイベント多い、わんちゃん、ねこちゃんにも優しいまち
4	安心して静かに暮らせる、もう少し気軽に助け合えるまち、まちの各所に翻訳機、まち全体で育児に取り組める(負担を家庭だけに負わせない)、可処分時間を多くとれるまち、散歩など楽しくできる、クスっとできるしかけづくり(ゴミをすてたらサンキューと言ってくれるとか)、メンタルクリニックにかかりやすい、買い物がしやすい
5	厚木市のSNSでのアピール、インフルエンサーの活用、地元の会社を盛りあげる→ふるさと納税、子どもが安全に通れる道、不登校支援の充実・居場所を作る、フリースクール助成(子どもの居場所作り)、整った備品のある学校
6	外国人が安心して住んでいる、公園が明るく危なくない、空き家や荒れ地が少ない、タバコのポイ捨てがない、子供の遊び場が沢山ある、気持ちよく目的地に行ける、すれ違った人と気軽に「あいさつ」出来る街

3.市民意見

全部で、125件の意見が出ました。
全ての意見は別紙を参照してください。

3-3.厚木市を「ウェルビーイングなまち」にするために必要なこと

班	主な意見
1	東京農大をうまく活用、地元の食材を使った給食を増やす、厚木の魅力を知り考える学校教育、海老名と差別化（同じ方向を目指さない）、木や植物を植える、都市グリーン計画、不妊治療の補助の充実、ボランティアネットワークの強化、今回の企画のような行政への市民参加の機会を増やす、農業を法人化、開発を止める
2	たすけあえるつながり、交通量緩和、市民が声をあげる、声を拾う場がある、すきま時間を利用して社会貢献できる、価値観の違う人たちが近隣で一緒に暮せる、高齢者と子どもが触れ合う場を増やす、親が学べる場がほしい
3	コミュニティバスをもっと広げて、自治会というスタイルから入りやすい団体に、市主催の市民ボランティア、市内レンタルサイクル（電動）、子ども・老人送迎ボランティア、自習スペース、避難所の安心（ペット対応・プライバシー）、不登校児のフリースクールをもっと作ってもらいたい
4	安心して暮らせるためにお互いにあいさつ運動、各自の心のゆとり、小さな困りごとを伝えやすいこと、各公民館に外国語を話せる人がいてほしい、出産予定の子も保育園に仮登録させてほしい、夜間や急な利用にも対応できる育児サポート、保育園のおむつ・布団のサブスクや連絡帳アプリの導入促進、言い合える目安箱、交通騒音対策
5	バス代補助やコミュニティバスの導入（交通量減らすため）、バスの本数を増やす、渋滞緩和、右折信号をもっと増やす、時差式信号を増やす、自転車専用レーンを増やす、フリースクールの助成、SNSインフルエンサー的な人をつくる、防犯設備導入世帯への補助金支給、子育てなど悩み共有できる機会
6	駅前を計画的に開発してほしい、地域の祭りを参加型にしていく、知り合いになるイベント、常に情報発信ができる環境にアクセスできる、各地域の身近な情報を共有する、地域の中で女性の意見を言いやすい雰囲気作り、まとめる人、忙しすぎない、すれ違う時のあいさつ、犬のお散歩・ウォーキングの人にもゴミ拾いして共にキレイにする

3.市民意見

3-3.厚木市を「ウェルビーイングなまち」にするために必要なこと【発表いただいた意見(1班)】

1

人にやさしくサステナブルな まちの実現に向けて

【必要なこと・その理由】

1. 教育の質の向上

・住み続けたいまちとしてあり続けるため、学校教育の充実や給食における地産地消の推進、大学を活用した取組などを行い、厚木の良さを子育て層にアピールする。

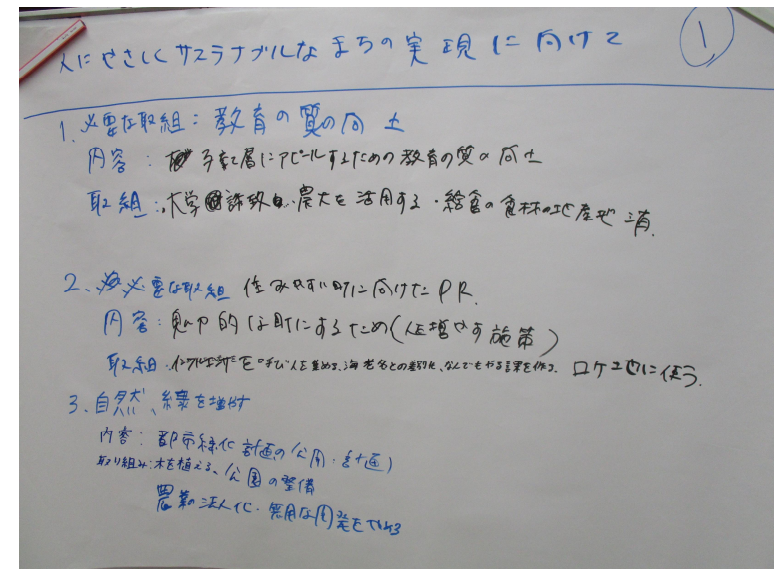
2. 住みやすいまちに向けたPR

・魅力的なまちにして人を増やすため、インフルエンサーによるイベント・観光情報の発信やロケ地としての利用促進により、厚木の魅力をPRする。

3. 自然・緑を増やす

・海老名市と差別化を図るため、公園の整備や植樹を行う。
・農業を守るため、農地を減らさないようにする。

【班ごとに作成した模造紙】



3.市民意見

3-3.厚木市を「ウェルビーイングなまち」にするために必要なこと【発表いただいた意見(2班)】

2

老若男女が生活しやすいまちの 実現に向けて

【必要なこと・その理由】

1. 住民の声をあげる場とひろう場

困りごとの解決や要望が実現するまでに時間がかかるため、制度と制度の間の身近な困りごとなどを気軽に伝えられる場が必要である。

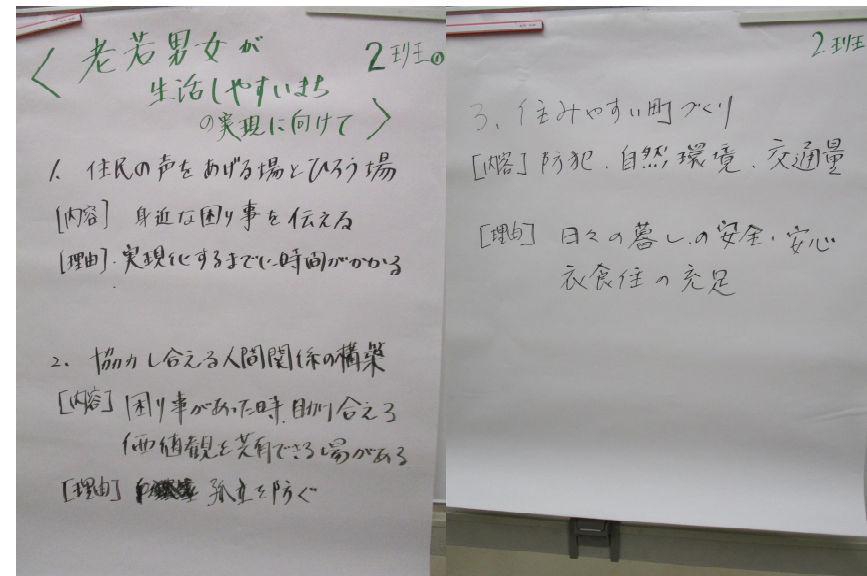
2. 協力し合える人間関係の構築

一人暮らし高齢者などの社会的孤立を防ぐため、困りごとがあつたときに助け合えたり、価値観を共有できる人間関係の構築が必要である。

3. 住みやすい町づくり

日々の暮らしの安心安全や衣食住は、生活する上で最も重要であるため、防犯、自然環境、交通量などの点から住みやすいまちにしていける必要がある。

【班ごとに作成した模造紙】



3.市民意見

3-3.厚木市を「ウェルビーイングなまち」にするために必要なこと【発表いただいた意見(3班)】

3

ハートフルなまちの実現に向けて

【必要なこと・その理由】

1. みんなが楽しめる場所

人と人がつながる場所として、カフェの併設などにより図書館を活性化することで、様々な情報が得られるとともに、困りごとの相談もできるような複合施設を作る。

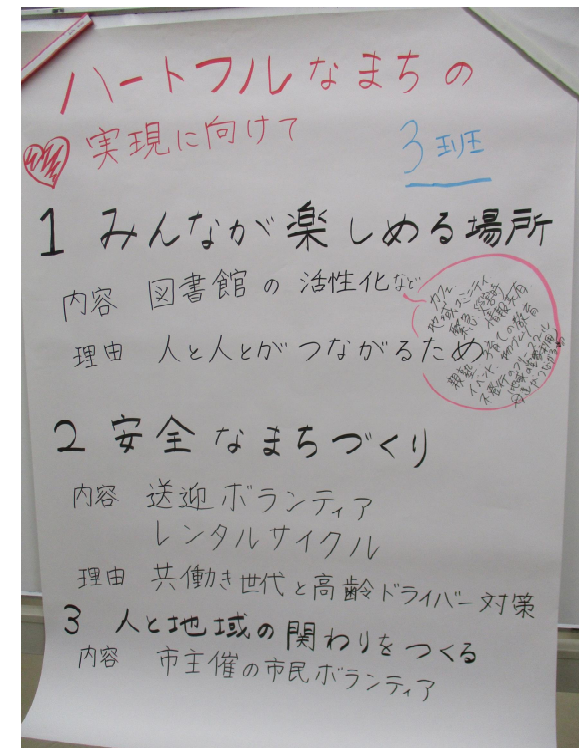
2. 安全なまちづくり

共働き家庭などの負担を軽減するため、送迎ボランティアの取組を行う。また、高齢ドライバーの対策として、レンタルサイクルを行う。

3. 人と地域の関わりをつくる

自治会に加入していない人や若い人でも地域との関わりが作れるよう、市のSNSでボランティアを募集するなど、地域でお互い助け合えるようにする。

【班ごとに作成した模造紙】



3.市民意見

3-3.厚木市を「ウェルビーイングなまち」にするために必要なこと【発表いただいた意見(4班)】

4

コミュニケーションの取りやすいまちの実現に向けて

【必要なこと・その理由】

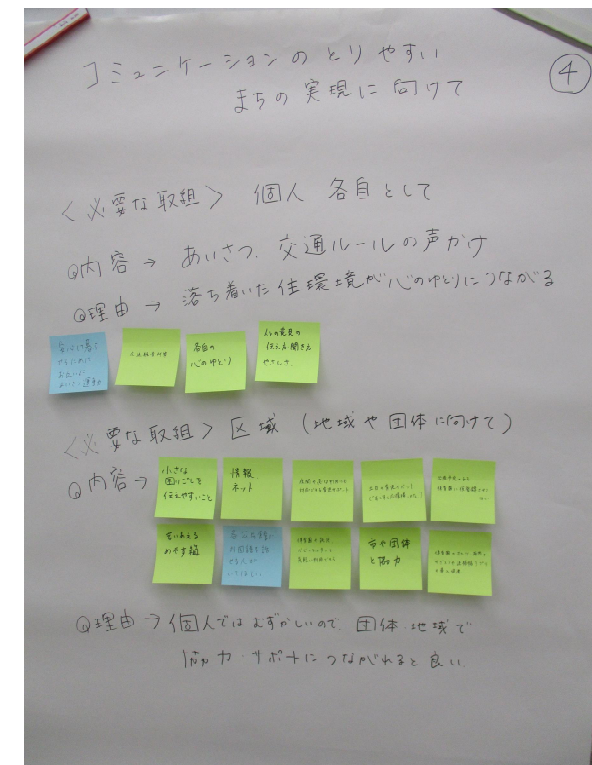
1. 個人・各自として

普段心にゆとりがないと感じる時が多く、落ち着いた住環境が心のゆとりにつながると考えることから、あいさつ運動や交通ルールの声かけなどを行うことで、コミュニケーションの取りやすいやさしいまちを作る。

2. 地域や団体に向けて

- ・個人では難しいため、地域や団体で協力・サポートを行い、ネットや情報とうまくつながれる場を作る。
- ・例えば育児などの小さな困りごとでも相談でき、誰かとコミュニケーションを取れる場を作る。

【班ごとに作成した模造紙】



3.市民意見

3-3.厚木市を「ウェルビーイングなまち」にするために必要なこと【発表いただいた意見(5班)】

5

ストレスフリーなまちの実現に向けて

【必要なこと・その理由】

1. バス利用のストレスフリー

- ・幅広い世代の公共交通機関の利用促進のため、コミュニティバスの運用を行う。
- ・バスの混雑や遅延情報の見える化のため、バス停のGPS表示を行う。

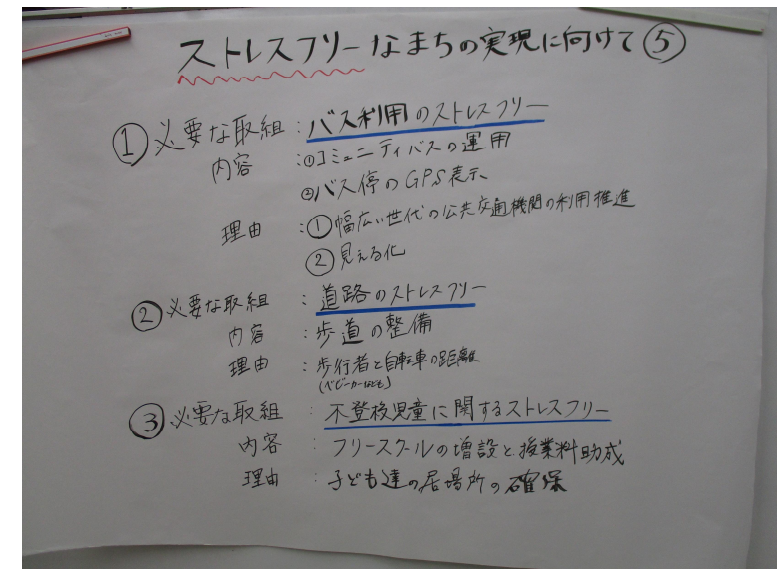
2. 道路のストレスフリー

狭くて安全に歩けない道や、歩行者が自転車とすれ違う際に危ない道があるので、歩道の整備を行う。

3. 不登校児童に関するストレスフリー

不登校の子どもたちの居場所を確保し、生きる希望を持たせるため、フリースクールの増設と授業料の助成を行う。

【班ごとに作成した模造紙】



3.市民意見

3-3.厚木市を「ウェルビーイングなまち」にするために必要なこと【発表いただいた意見(6班)】

6

持続可能なつながりのまちの 実現に向けて

【必要なこと・その理由】

1. 情報共有

紙の回覧板だけでなく、森の里のふくろうネットのように、LINEで広報や公民館だより、地域の防犯・イベント情報などを周知し、全世代で共有することで地域の活性化につなげ、若い世代や転入者も町内会に入りやすくする。

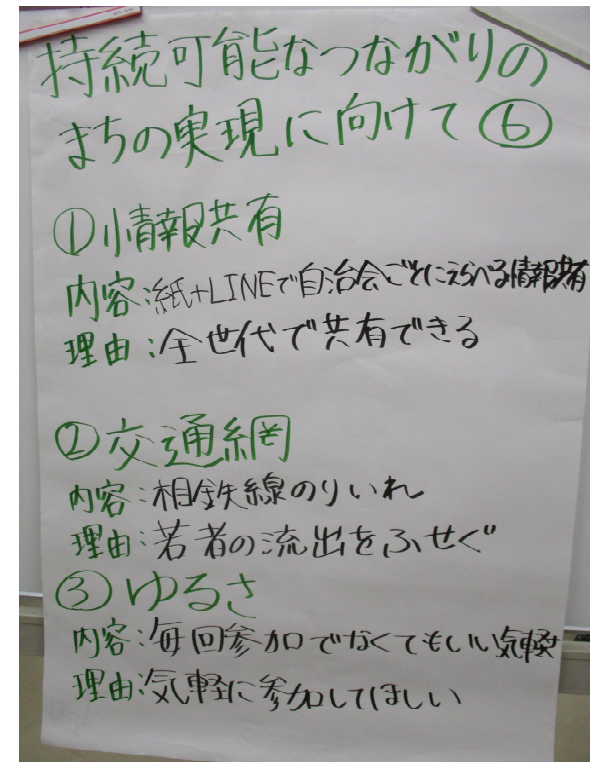
2. 交通網

若い人の流出を防ぐため、相鉄線の延伸やロマンスカーの本数維持など交通網の維持を重点的に行う。

3. ゆるさ

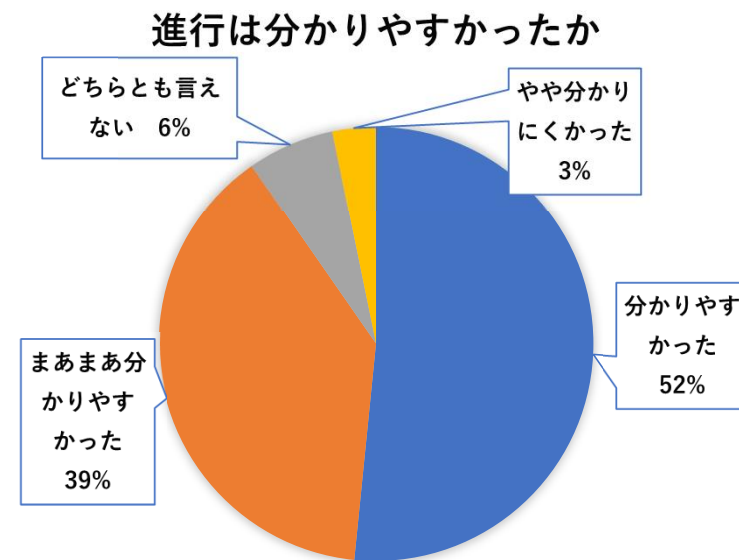
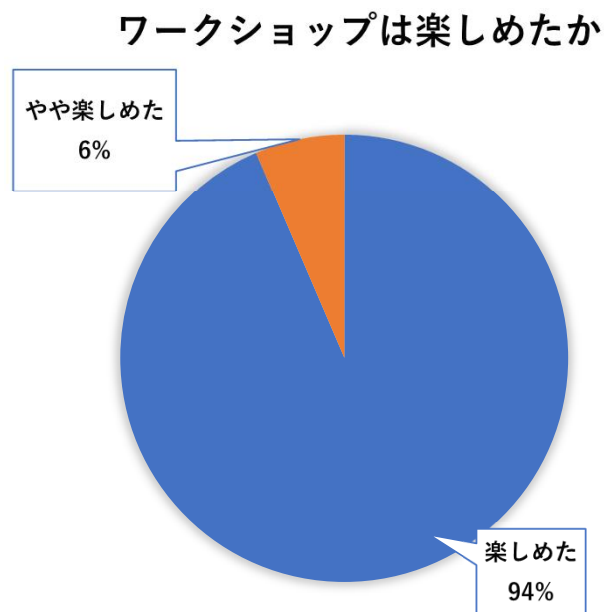
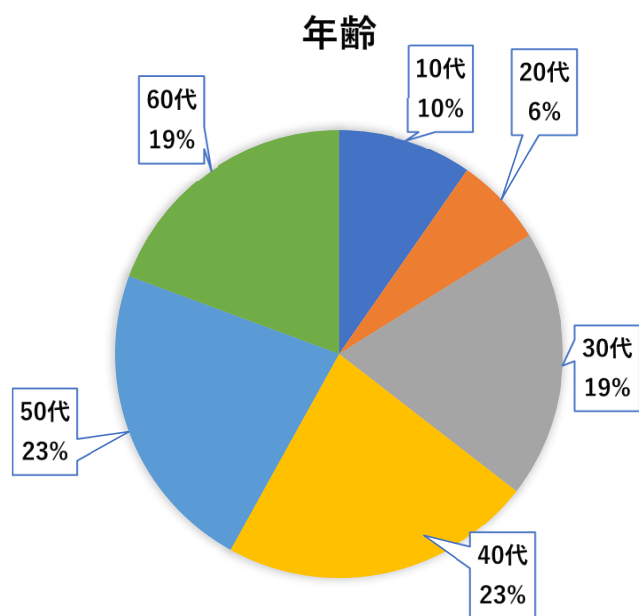
町内会を持続可能なものにするため、毎回ではなくても参加できるときに参加するという気軽さとゆるいつながりにしていくことで、負担感を減らしていく。

【班ごとに作成した模造紙】



4.参加者アンケート実施結果①

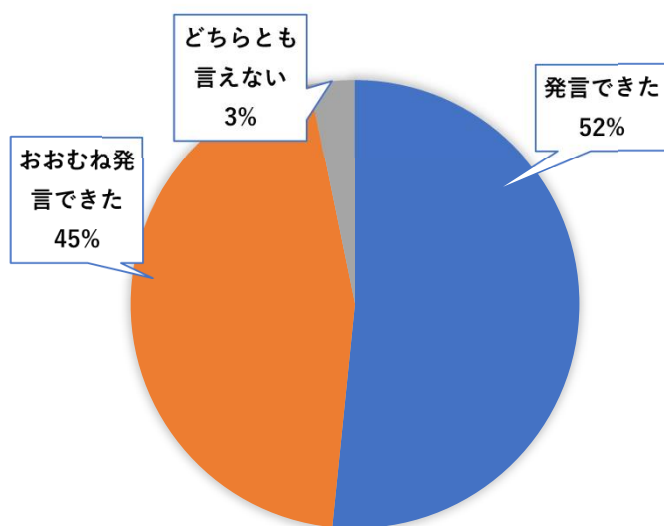
- 31名の方に回答いただきました。（回答率93.9%）
- ワークショップについて、全ての方が「楽しめた」または「やや楽しめた」と回答しています。
- 進行について、9割以上の方が「分かりやすかった」または「まあまあ分かりやすかった」と回答しています。



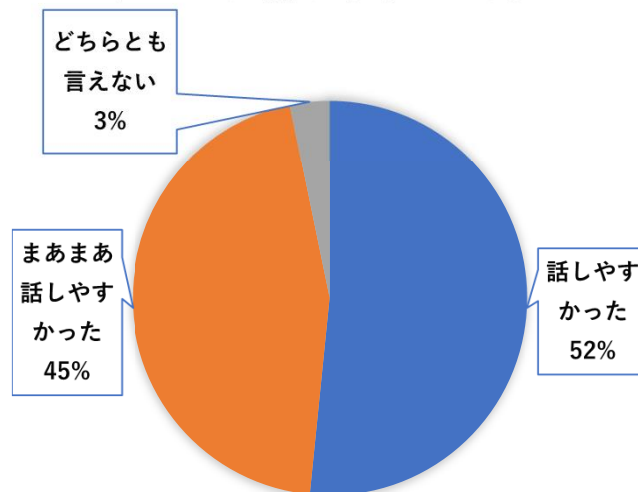
4.参加者アンケート実施結果①

- 御自分の意見について、9割以上の方が「発言できた」または「おおむね発言できた」と回答しています。
- テーマについて、9割以上の方が「話しやすかった」または「まあまあ話しやすかった」と回答しています。
- 全員の意見について、9割以上の方が「反映された」または「おおむね反映された」と回答しています。

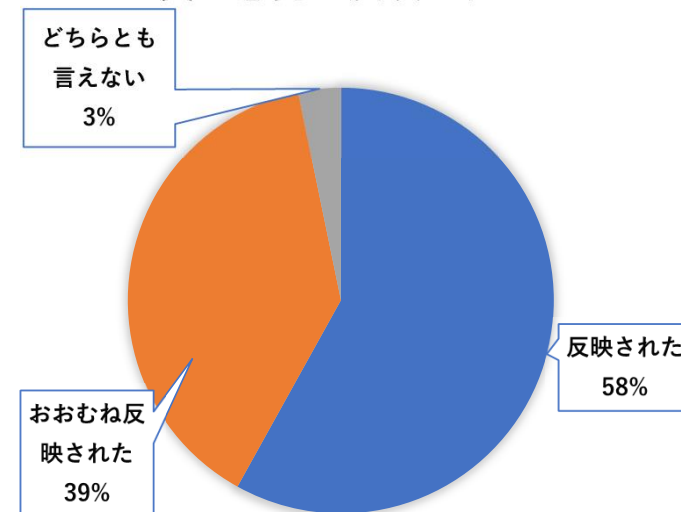
自分の意見を発言できたか



テーマは話しやすかったか

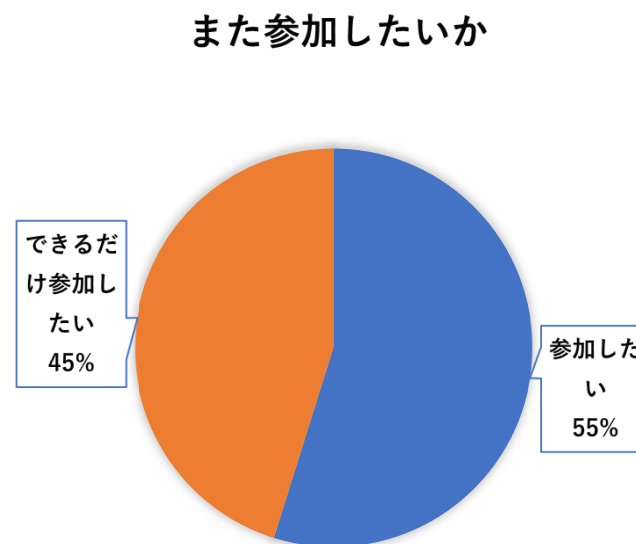
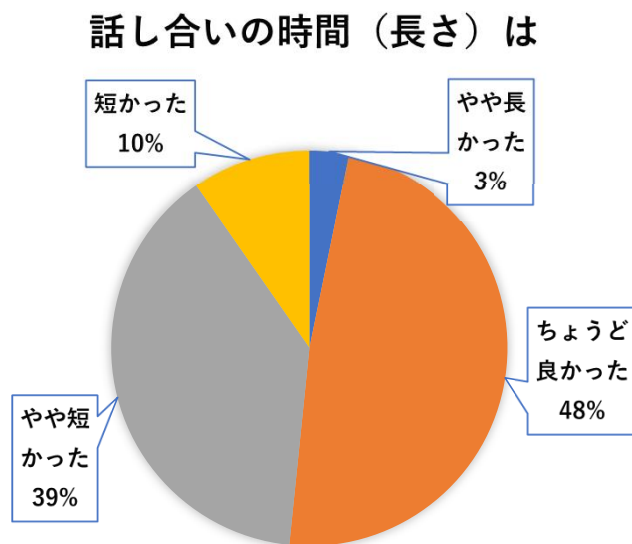


全員の意見が反映されたか



4.参加者アンケート実施結果①

- 話し合いの時間について、約5割の方が「ちょうど良かった」、約5割の方が「短かった」または「やや短かった」と回答しています。
- 今後、今回のワークショップのような市民参加の機会について、全ての方が「参加したい」または「できるだけ参加したい」と回答しています。



4.参加者アンケート実施結果②

あなたの“No.1ウェルビーイング”は何ですか？

- ・ 食農教育の充実で心地よい循環を♡
- ・ 皆が幸せ！
- ・ 人と仲良く
- ・ 人とのつながり
- ・ 家族や友人と笑っている時
- ・ 楽しく遊びに行っている時やゲームをするなどたくさんあります。
- ・ 笑顔で心身ともに健康で生きてることに感謝できること
- ・ いくつになってもチャレンジ
- ・ 心身ともに健やかに過ごせること（ストレスフリーなどに関連して）
- ・ 家族で大笑いすること
- ・ ストレスフリーでおでかけを楽しめること
- ・ 家族皆が安心、安全、健康に暮らせる事
- ・ 家族が笑顔で過ごせること
- ・ 私の周りの人の笑顔を見れること

4.参加者アンケート実施結果②

- ・ 息子の毎日が健康で幸せであること。
- ・ 安心して家にいられる
- ・ つながりやすい環境
- ・ 地域で関わりの多い生活
- ・ 家族で食卓を囲んだとき、健康で笑顔いっぱい
- ・ 様々な価値観を皆が共有できる場作り（生活の場の構築）
- ・ 地球の温暖化ストップ！！安心安全なオーガニックな食　～地球にやさしく生きる～
- ・ 家族の笑顔
- ・ 自分らしくのびのび
- ・ 愛ある町に
- ・ いつまでも楽しくダンスをおどれるように。
- ・ 子どもの成長と自己実現
- ・ 子どもの笑顔
- ・ 好きなことができること
- ・ 家族とゆっくり過ごす時間

4.参加者アンケート実施結果③

気づいたことや感じたことがあればお聞かせください。

- ・ すごく楽しかったです！
- ・ もっとSNSを利用していったら良いのでは。市役所の中にこんな事したい、あんな事したいの相談を受け付けてくれる窓口を作って欲しい。
- ・ 厚木市が活性化するために、町の様々な人の意見を言える場があったらいいと思いました。意見交換の場が設定されないと声に出せない。
- ・ 市長に直接声が届いたら嬉しいです。アミューやシティプラザなどハコはあるのに活かしきれていない。厚木のために何かしたいという熱い思いのある人がやはり沢山いらっしゃると感じました、そのパワーをつなぐ場、組織が必要。既存の社会福祉協議会はあまり機能していない。もったいない。教育現場の人手不足もボランティアをもっと活用して欲しい。
- ・ ファシリの人もう少し声を大きく発言してほしい。不妊治療への補助もぜひおねがいしますー！！
- ・ いろいろな人と話し合う機会はとても大切だと思いました。
- ・ 所々職員の方からアドバイスなどを頂けて大変助かりました。
- ・ 地域事業に財政を使って頂きたい。町カフェつくりたい。

4.参加者アンケート実施結果③

- ・皆さん生活しているなかで思うことがたくさんあるのだと思いました。いきいきとしている方が多く、明るい気持ちになりました。
- ・「歩道がせまい」「バスが予定通りこない」などつねづね感じていることを他の人も同じように感じていることがわかり、それらを共有できたのが良かったです。
- ・皆さん、厚木愛がいっぱい、これなら発展して行くに違いないと感じました。こういう機会をもっと増やしていただけるといいですね。
- ・最後の発表のタイムキーパーの鈴チン！というのとはよくなかったと思います。やさしい町作りの目的の集まりには向いていないです。私は企業に勤めていますが、このようなときは、画用紙のタイムを書いて持ち上げてほしいです。しかしながらもうそれだけで、他は、本日、参加できましたことは、とてもすばらしい企画に参加させて頂きましてありがとうございました。
- ・地元の人、引っ越してきた人、それぞれの年代がゆるくつながれる場所が必要。イベント、不登校（フリースクール、居場所を増やす）支援拡充よろしくお願いします。
- ・転勤多く、住む地域にさほど関心はなかったけれど、住む場所に愛着もてたような気がします。
- ・とても楽しくお話しできてすごくよかったです。

4.参加者アンケート実施結果③

- ・ ウェルビーイングが人によってちがうけれどみんなのウェルビーイングを大切にしたいと思いました。
- ・ 気付いたことではないが、小中学校の図書室を地域に開放してほしいです。私の通っている依知中学校は、約8割の生徒は、中学校に通っている間「1度も」本を借りずに卒業をしてしまいます。（市中ワースト1位）こんなに身近に多くの本があるのに、もったいないと思い、図書室を開放してほしいと思いました。また、中央図書館まで、家から車で約30分かかりますが、中学校までは徒歩10～15分なので、開放してほしいと思いました。
- ・ この話し合いが成果となり実現することができるよう切に願います。
- ・ 自分とは異なる年代の方の悩みごと（運転免許返納後のサポートの不足等）
- ・ たくさんの意見がきけて、とても楽しい時間でした。ありがとうございました。
- ・ 具体的な面がピックアップされて、女性ならではの目線で話せてよかったです。
- ・ いろんな人の話や会話など楽しかった。
- ・ 20代が少なく感じました。もっと20代（10代も）に向けた取組みが必要と思います。
- ・ 基本的なニーズはストレスのないコミュニティ形成であることを認識した。

5. 当日の様子



御参加ありがとうございました。